

第2章 配偶者暴力被害体験者個別調査結果

【調査の概要】

配偶者からの暴力被害体験者を対象にアンケート調査を行い、被害の実態（暴力の状況、子供の状況等）、被害体験者がこれまで受けた支援内容などを把握する。

【調査内容】

調査対象	： 東京都内に居住する配偶者暴力被害体験者
調査期間	： 令和6年8月1日～11月15日
調査方法	： 専用の調査票を郵送（一部、支援機関より手渡し）により配布
回収調査実施数	： 98件

【調査結果を見る際の留意点】

回答の記述を引用する場合は、プライバシーの保護の観点から、個人や場所が特定されないよう一部修正を加えた。

1. 回答者（被害者）と配偶者・パートナー等（加害者）

（１） 年齢

回答者本人（被害者）の年齢は 40歳代が 34.7%で最も多く、次いで 50歳代（23.5%）、30歳代（18.4%）の順となっている。

回答者の配偶者・パートナー等（加害者）の年齢は 50歳代が 29.6%で最も多く、次いで、40歳代（25.5%）、60歳代（16.3%）の順となっている。平均年齢は 50.9歳であった。

表 2－1 年齢

	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答	平均年齢
本人	98	3	18	34	23	11	5	4	48.3
	100%	3.1%	18.4%	34.7%	23.5%	11.2%	5.1%	4.1%	
配偶者・ パートナー等	98	3	13	25	29	16	7	5	50.9
	100%	3.1%	13.3%	25.5%	29.6%	16.3%	7.1%	5.1%	

（２） 現在の居住状況

現時点で、加害者である配偶者・パートナーと離婚した人が33.7%、別居している人が31.6%となっている。

表 2－2 現在の居住状況

全体	離婚	別居	同居	無回答
98	33	31	6	28
100%	33.7%	31.6%	6.1%	28.6%

（３） 当時の婚姻の状況

表 2－3 当時の婚姻の状況

全体	婚姻	事実婚	未婚	その他	無回答
98	86	5	5	1	1
100%	87.8%	5.1%	5.1%	1.0%	1.0%

（４） 離婚に向けた現状

現在、別居している人の離婚に向けた現状は、「離婚の話し合い中・裁判中」が58.1%、「特に何もしていない」人が22.6%となっている。

表 2－4 離婚に向けた現状

全体	離婚の話し合い中・裁判中	特に何もしていない	離婚に向けて準備中	その他	無回答
31	18	7	1	4	1
100%	58.1%	22.6%	3.2%	12.9%	3.2%

(5) 同居期間

同居の期間は、10 年未満が 31.6%、10 年以上 20 年未満が 30.6%、20 年以上が 20.4%となっている。

現在の居住状況別に見ると、別居している人では、同居していた期間が10年以上15年未満の人が22.6%で最も多い。

離婚している人では、同居していた期間が5年以上 10 年未満の人と10 年以上 15 年未満の人がともに 24.2%で最も多くなっている。

表 2－5 同居期間

現在の 居住状況	全体	5 年未満	5 年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	無回答
合計	98	12	19	19	11	20	17
	100%	12.2%	19.4%	19.4%	11.2%	20.4%	17.3%
同居	6	0	2	0	1	3	0
	100%	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%	50.0%	0.0%
別居	31	3	5	7	4	6	6
	100%	9.7%	16.1%	22.6%	12.9%	19.4%	19.4%
離婚	33	5	8	8	3	6	3
	100%	15.2%	24.2%	24.2%	9.1%	18.2%	9.1%

(6) 別居期間

現在、離婚又は別居している人の別居の期間は 5 年未満が62.5%を占めている。なお、離婚した人のうち、15年以上別居した人はいなかった。

表 2－6 別居期間

現在の 居住状況	全体	5 年未満	5 年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	無回答
合計	64	40	2	4	1	1	16
	100%	62.5%	3.1%	6.3%	1.6%	1.6%	25.0%
別居	31	21	1	3	1	1	4
	100%	67.7%	3.2%	9.7%	3.2%	3.2%	12.9%
離婚	33	19	1	1	0	0	12
	100%	57.6%	3.0%	3.0%	0.0%	0.0%	36.4%

(7) 別居場所

現在別居している人の別居場所としては、「親兄弟・親戚宅」が19.4%、「一時保護施設」が12.9%となっている。また、「その他」としては、「アパート」「マンション」「ステップハウス」などがあった。

表 2－7 別居場所（複数回答）

全体	一時保護施設	親兄弟・ 親戚宅	友人宅	その他	無回答
31	4	6	0	17	4
100%	12.9%	19.4%	0.0%	54.8%	12.9%

（８） 現在同居する家族

現在、58.2%の人が子供と同居しており、35.7%の人が一人暮らしとなっている。また、父母と同居している人は7.1%であった。

表２－８ 現在同居する家族（複数回答）

全体	子供	父母	配偶者・パートナー	兄弟姉妹	孫	祖父母	なし	その他	無回答
98	57	7	6	3	1	1	35	0	0
100%	58.2%	7.1%	6.1%	3.1%	1.0%	1.0%	35.7%	0.0%	0.0%

（９） 最終学歴

回答者本人の最終学歴を見ると、「4年生又は6年生大学」又は「大学院」が41.9%、「短期大学」が14.3%、「高等学校、高等専門学校」が24.5%となっている。

配偶者・パートナー等の最終学歴は、「4年生又は6年生大学」又は「大学院」が58.2%、「高等学校、高等専門学校」が21.4%となっている。

表２－９ 最終学歴

	合計	中学校	高等学校、 高等専門学校	専門学校、 各種学校	短期大学	4年制大学、 6年制大学	大学院	無回答
本人	98	3	24	16	14	32	9	0
	100%	3.1%	24.5%	16.3%	14.3%	32.7%	9.2%	0.0%
配偶者・ パートナー	98	6	21	9	3	43	14	2
	100%	6.1%	21.4%	9.2%	3.1%	43.9%	14.3%	2.0%

（１０） 配偶者・パートナー等の生育歴

配偶者・パートナー等が、育った家庭で暴力を受けていたと回答した人が43.9%を占めている。暴力を受けていた場合、父親からが46.5%（20人）を占め、両親からが18.6%（8人）、母親からが9.3%（4人）である。

表２－１０ 配偶者・パートナー等の生育歴

全体	家庭で暴力を受けていた	家庭で暴力を受けていない	分からない	無回答
98	43	18	36	1
100%	43.9%	18.4%	36.7%	1.0%

表２－１１ 加害者（配偶者・パートナー等の生育歴）

全体	父	母	両親	祖母	無回答
43	20	4	8	1	10
100%	46.5%	9.3%	18.6%	2.3%	23.3%

（１１）加害者の性格・タイプ

回答者（被害者）から見た配偶者・パートナー等（加害者）の性格・タイプは、「自分の行ってきた暴力行為に対して罪の意識がないと思われますか」が90.8%と最も多く、「責任は自分にはなく、自分が犠牲者だと考えるタイプですか」が87.8%、「自分を傷つける言葉には非常に敏感で、傷つけられると怒りなど感情の抑えが利かなくなりますか」85.7%と続き、加害の意識より、被害の意識が強いと感じている傾向が見える。

また、相手に対する要求として、「あなたからの関心・サポート・服従を期待する一方で、自分自身は自由奔放に振る舞う傾向がある」が79.6%、「自分の理想の女性像をあなたに求めてくることがありますか」72.4%、「妻は家にいて、夫に黙って従うのが当然という性別役割分担があると考えるタイプですか」56.1%となっている。

世間的な評価としては、「会社や世間の人からは人望が厚く、社会的な信用があると思われる」（57.1%）とともに、「精神的に不安定なことが多い」（55.1%）とも捉えている。「子供に対して優しい」は4割以上の人が「どちらとも言えない」としている。

表２－１２ 加害者の性格

	全体	はい	どちらとも言えない	いいえ	分からない	無回答
会社や世間の人からは人望が厚く、社会的な信用があると思われますか	98	56	30	9	3	0
	100%	57.1%	30.6%	9.2%	3.1%	0.0%
生活費を負担しますか	98	52	16	27	3	0
	100%	53.1%	16.3%	27.6%	3.1%	0.0%
飲酒や外泊などの機会が多いですか	98	41	18	37	2	0
	100%	41.8%	18.4%	37.8%	2.0%	0.0%
何かあるとあなたにプレゼントなどをしますか	98	31	28	37	2	0
	100%	31.6%	28.6%	37.8%	2.0%	0.0%
子供に対して、優しいですか	98	18	43	18	19	0
	100%	18.4%	43.9%	18.4%	19.4%	0.0%
約束は、守りますか	98	17	31	47	3	0
	100%	17.3%	31.6%	48.0%	3.1%	0.0%
自分の理想の女性像をあなたに求めてくることがありますか	98	71	16	7	4	0
	100%	72.4%	16.3%	7.1%	4.1%	0.0%
妻は家にいて、夫に黙って従うのが当然という性別役割分担があると考えるタイプですか	98	55	23	12	8	0
	100%	56.1%	23.5%	12.2%	8.2%	0.0%
責任は自分にはなく、自分が犠牲者だと考えるタイプですか	98	86	10	1	1	0
	100%	87.8%	10.2%	1.0%	1.0%	0.0%
あなたが外出したり友人などと会うことを嫌い、行動を詮索したり、あなたが自分以外に興味を示すことを嫌がりますか	98	60	18	15	5	0
	100%	61.2%	18.4%	15.3%	5.1%	0.0%
あなたからの関心・サポート・服従を期待する一方で、自分自身は自由奔放に振る舞う傾向がありますか	98	78	13	4	3	0
	100%	79.6%	13.3%	4.1%	3.1%	0.0%
自分を傷つける言葉には非常に敏感で、傷つけられると、怒りなど感情の押さえが利かなくなりますか	98	84	10	1	3	0
	100%	85.7%	10.2%	1.0%	3.1%	0.0%
何かあるとアルコール等に頼る傾向がありますか	98	41	16	37	4	0
	100%	41.8%	16.3%	37.8%	4.1%	0.0%
精神的に不安定なことが多いですか	98	54	29	12	3	0
	100%	55.1%	29.6%	12.2%	3.1%	0.0%
自分の行ってきた暴力行為に対して、罪の意識がないと思われますか	98	89	5	1	3	0
	100%	90.8%	5.1%	1.0%	3.1%	0.0%
あなたの同意なく性行為を強要しますか	98	47	23	25	3	0
	100%	48.0%	23.5%	25.5%	3.1%	0.0%

（１２）職業

暴力を受け、初めて相談機関に行った当時の回答者本人の職業は、「専業主婦・主夫」が35.7%を占め、次いで、「事務職」（15.3%）となっている。現在は、「無職」が28.6%で最も多く、次いで「事務職」が16.3%となっている。

加害者である配偶者・パートナー等の当時の職業は、「事務職」と「経営者・管理職」がともに21.4%で最も多く、「技術・専門職」（14.3%）が続いている。現在は、「経営者・管理職」が19.4%で最も多く、「事務職」が11.2%が続いている。なお、「無職」の割合は10.2%であった。

表２－１３ 暴力を受け初めて相談機関に行った当時と現在の被害者・加害者の職業

	全体	専業主婦・主夫	事務職	専門・技術職	無職	自由業	販売・サービス	小売り・サービス業
本人（当時）	98 100%	35 35.7%	15 15.3%	9 9.2%	7 7.1%	4 4.1%	4 4.1%	3 3.1%
本人（現在）	98 100%	9 9.2%	16 16.3%	15 15.3%	28 28.6%	5 5.1%	4 4.1%	3 3.1%
配偶者・パートナー等（当時）	98 100%	0 0.0%	21 21.4%	14 14.3%	1 1.0%	7 7.1%	7 7.1%	5 5.1%
配偶者・パートナー等（現在）	98 100%	0 0.0%	11 11.2%	9 9.2%	10 10.2%	8 8.2%	4 4.1%	4 4.1%

経営者・管理職	技能職	学生	農業・林業・漁業	その他	無回答
3	1	1	0	11	5
3.1%	1.0%	1.0%	0.0%	11.2%	5.1%
2	2	1	0	8	5
2.0%	2.0%	1.0%	0.0%	8.2%	5.1%
21	12	0	1	5	4
21.4%	12.2%	0.0%	1.0%	5.1%	4.1%
19	4	0	1	16	12
19.4%	4.1%	0.0%	1.0%	16.3%	12.2%

（１３）勤務形態

被雇用の有職者の勤務形態は、本人では、初めて相談機関に行った当時は「常勤」（51.3%）が「非常勤」（48.7%）をやや上回り、現在も同様に「常勤」が「非常勤」をやや上回っている。

配偶者・パートナー等の当時の勤務形態は、「常勤」が89.8%を占める。

表２－１４ 勤務形態

	全体	常勤	非常勤	無回答
本人（当時）	39 100%	20 51.3%	19 48.7%	0 0.0%
本人（現在）	47 100%	25 53.2%	18 38.3%	4 8.5%
配偶者・パートナー（当時）	88 100%	79 89.8%	5 5.7%	4 4.5%
配偶者・パートナー（現在）	60 100%	53 88.3%	3 5.0%	4 6.7%

(14) 年収（額面）

初めて相談機関に行った当時の本人の年収（額面）は、収入なしが34.7%を占めており、300万円未満が41.8%、300万円以上が17.4%となっている。

本人の現在の年収を見ると、300万円未満が39.8%、300万円以上は20.4%となっている。

配偶者・パートナー等の当時の年収は、850万円以上が22.4%、300万円以上850万円未満が43.9%となっている。

表2-15 年収（額面）

	全体	収入なし	103万円未満	103万円以上 300万円未満	300万円以上 850万円未満	850万円以上	わからない	無回答
本人（当時）	98	34	19	22	14	3	2	4
	100%	34.7%	19.4%	22.4%	14.3%	3.1%	2.0%	4.1%
本人（現在）	98	32	18	21	20	0	2	5
	100%	32.7%	18.4%	21.4%	20.4%	0.0%	2.0%	5.1%
配偶者・パートナー（当時）	98	3	2	5	43	22	20	3
	100%	3.1%	2.0%	5.1%	43.9%	22.4%	20.4%	3.1%
配偶者・パートナー（現在）	98	5	2	2	26	20	33	10
	100%	5.1%	2.0%	2.0%	26.5%	20.4%	33.7%	10.2%

(15) 現在の生活費

現在の生活費については日常的な収入のみで賄っている人が39.8%で最も多い。日常的な収入以外の収入源としては、生活保護受給が17.3%で最も多く、次いで、婚姻費用（11.2%）、年金（11.2%）、養育費（10.2%）、児童手当・児童扶養手当・児童育成手当等受給（8.2%）となっている。

表2-16 現在の生活費（複数回答）

全体	給与・賃金	生活保護受給	婚姻費用	年金	養育費	児童手当・児童扶養手当・児童育成手当等受給	障害年金	預貯金	雇用保険	無回答
98	39	17	11	11	10	8	7	5	1	19
100%	39.8%	17.3%	11.2%	11.2%	10.2%	8.2%	7.1%	5.1%	1.0%	19.4%

(16) 加害者による追跡の危険性

加害者（相手）が追跡してくるのではと強く感じるかを尋ねたところ「そう感じる」は41.8%であった。

表2-17 加害者による追跡の危険性（加害者（相手）が追跡してくるのではと強く感じるか）

全体	そう感じる	そうは感じない	その他	無回答
98	41	30	12	15
100%	41.8%	30.6%	12.2%	15.3%

(17) 現在の心身の健康状態

精神的に落ち着くようになってきている人がいる一方で、未だに不安感を感じたり、うつ、PTSDなどで通院を余儀なくされたりしている人も多い。

2. 暴力被害の実態

(1) 最初に暴力を受けた時期

最初に暴力を受けた時期は、「交際中」が 32.7%、「結婚（同居）後」が 54.1%となっている。

表 2-18 最初に暴力を受けた時期

全体	交際中	結婚(同居)後	無回答
98	32	53	13
100%	32.7%	54.1%	13.3%

具体的には、交際中に最初の暴力を受けた人では、交際してから 1 年未満が 34.4%である。

結婚（同居）後に最初の暴力を受けた人では、結婚（同居）後 1 年未満という人が 7.5%となっている。

表 2-19 最初に暴力を受けた時期（詳細）

	全体	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 4年未満	4年以上 6年未満	6年以上 8年未満	8年以上	無回答
交際してから	32	11	1	6	1	0	2	11
	100%	34.4%	3.1%	18.8%	3.1%	0.0%	6.3%	34.4%
結婚してから	53	4	3	3	2	0	6	35
	100%	7.5%	5.7%	5.7%	3.8%	0.0%	11.3%	66.0%

(2) 最初に暴力を受けた場所

最初に暴力を受けた場所は、「自宅」が 77.6%を占め、「自宅外」は 40.8%である。

表 2-20 最初に暴力を受けた場所（複数回答）

全体	自宅	自宅外	無回答
98	76	40	4
100%	77.6%	40.8%	4.1%

(3) 暴力を受けたときの心理状況

暴力を受けたときの心理状態は、「怖い、恐怖、怯え」が 88.8%で最も多く、「混乱（頭が真っ白になった、何も考えられなくなった）」（71.4%）、「相手のことが嫌になる、話すのも嫌、相手を信頼できなくなる」（65.3%）が続く。

「その他」としては、「無の心(早く終わらないかただ時間の経つのに耐える)」、「最初に暴力(私の場合モラハラとパワハラ)と認識した時から常に背後から目に見えぬ圧力・圧迫感を感じていた」、「暴力が重なるごとにこのままではいけないという思いが大きくなっていった。でもそれがDVとは気づかなかった」、「社会的にも認められる傾向になる人なので、他の人（家族も含め）からの助けを得にくく、相談できない閉塞感」、「子どもが生まれたら変わると思って耐えていた。自分が決めた人だから子供のために離婚は考えなかった」などがある。

また、「今度されたら何か行動を起こそうと思う」が 36.7%おり、相手や自分に対する否定的・消極的な感情、怒りや軽蔑、暴力を受けたという事態に対する混乱などいくつかの感情が複合的に生じている。

表２－２１ 暴力を受けたときの心理状況（複数回答）

全体	怖い、恐怖、 怯え	混乱（頭が 真っ白になっ た、何も考え られなくなっ た）	相手のことが 嫌になる、話 すのも嫌、相 手を信頼でき なくなる	屈辱的、悔し い	驚き	相手と別れた い	相手に対する 憎しみ、怒り	私が悪いか ら、私がいけ ないと思った
98	87	70	64	61	59	56	51	51
100%	88.8%	71.4%	65.3%	62.2%	60.2%	57.1%	52.0%	52.0%

このまま殺さ れるのではな いかと思った	慣れ、いつも のこと、もう 何をやっても しょうがない	自分への憐れ み（何もして いないのにひ どい、何故こ ういうことを されるのか）	今度されたら 何か行動を起 こそうと思っ た	相手を軽蔑 し、情けない 人だと思う	現実感がない	その他
43	41	37	36	31	29	33
43.9%	41.8%	37.8%	36.7%	31.6%	29.6%	33.7%

（４） 暴力を受けた期間

暴力を受けた期間は、3年以上10年未満と10年以上 20 年未満がともに28.6%と最も多い。

表２－２２ 暴力を受けた期間

全体	3年未満	3年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上	無回答
98	13	28	28	9	7	13
100%	13.3%	28.6%	28.6%	9.2%	7.1%	13.3%

3. 子供への暴力

(1) 子供の面前での暴力

暴力を受けている時に子供がいた 78人に、子供の面前で暴力を振るわれたことがあるかを尋ねたところ、78.2%の人が「あり」と回答している。

表 2-23 子供の面前での暴力

全体	あり	なし	分からない
78	61	8	9
100%	78.2%	10.3%	11.5%

(2) 子供への暴力

暴力を受けている時に子供がいた人の内、配偶者・パートナー等（加害者）から子供への暴力があったのは66.0%となっている。なお、第一子から第四子まで、いずれも6割以上の割合で暴力があったとしている。

表 2-24 子供への暴力の有無

	全体	あり	なし	未回答
合計	144 100%	95 66.0%	35 24.3%	14 9.7%
第一子	76 100%	52 68.4%	17 22.4%	7 9.2%
第二子	50 100%	32 64.0%	12 24.0%	6 12.0%
第三子	15 100%	9 60.0%	5 33.3%	1 6.7%
第四子	3 100%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%

暴力を受けた子供の性別は、男性が52.1%、女性が 45.8%となっている。

表 2-25 性別

	全体	男	女	未回答
合計	144 100%	75 52.1%	66 45.8%	3 2.1%
第一子	76 100%	35 46.1%	41 53.9%	0 0.0%
第二子	50 100%	30 60.0%	19 38.0%	1 2.0%
第三子	15 100%	8 53.3%	6 40.0%	1 6.7%
第四子	3 100%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%

暴力を受けた子供の年齢は、以下の通りである。

表 2-26 年齢

時期	全体	1歳未満	1歳以上 5歳未満	5歳以上 10歳未満	10歳以上 15歳未満	15歳以上	無回答	平均
合計	現在	144	1	13	22	25	83	0
		100%	0.7%	9.0%	15.3%	17.4%	57.6%	0.0%
	最初	144	31	29	17	7	3	57
		100%	21.5%	20.1%	11.8%	4.9%	2.1%	39.6%
第一子	現在	76	1	6	11	10	48	0
		100%	1.3%	7.9%	14.5%	13.2%	63.2%	0.0%
	最初	76	13	19	9	6	2	27
		100%	17.1%	25.0%	11.8%	7.9%	2.6%	35.5%
第二子	現在	50	0	6	9	9	26	0
		100%	0.0%	12.0%	18.0%	18.0%	52.0%	0.0%
	最初	50	11	6	8	1	1	23
		100%	22.0%	12.0%	16.0%	2.0%	2.0%	46.0%
第三子	現在	15	0	1	2	4	8	0
		100%	0.0%	6.7%	13.3%	26.7%	53.3%	0.0%
	最初	15	5	4	0	0	0	6
		100%	33.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
第四子	現在	3	0	0	0	2	1	0
		100%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%
	最初	3	2	0	0	0	0	1
		100%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%

(3) 子供への暴力の内容

子供へ最初に振るった暴力は、精神的暴力が92.7%、身体的暴力が65.5%となっている。

身体的暴力としては、「どなる、たたく、たたせる」、「腕を強く引っ張る、口を塞ぐ、押さえつける」、「平手打ち、夜中まで立たせる」、「食事を与えない」、「叩く、ける、ものをなげる、音を立てる」「馬乗りになっておさえつけてビンタ」などがある。

精神的暴力としては、「長時間威圧的な話し方で子供を委縮させる。大声で怒鳴る」、「謝罪の執拗な要求」、「家を出て行けと言ったり、容姿を否定するような事を言ったりしていた」、「バカ、のろま、ぐず、役立たず」、「母親はひどい女、人間だと毎晩話す。私自身にも言う。」などがある。

性的暴力としては、「外にはだかで出す」「お風呂やおむつ替えでもないのに裸にして小股等を見て「大人と同じ」とずっと見ていた。」などがある。

「その他」としては、「追いかけまわす・無視・妹と差をつけてけなす・厳しくする。」、「自分の理想の娘にするべく様々な場面で娘の考えを聞くことはなく一方的に自分の考えを強引に、圧力をかけて押し付ける」、「小児慢性特定疾患のある子供に治療を受けさせないことがあった」、「常にどなる、何で怒り出すのかわからない。大切なおもちゃなどを目の前でバリバリに壊す、家の物を壊す。出て行って戻らない、おどす、壁をたたく、ドアを壊す」などがある。

表 2-27 子供への暴力の内容（複数回答）

全体	精神的暴力	身体的暴力	性的暴力	その他	無回答
55	51	36	11	26	0
100%	92.7%	65.5%	20.0%	47.3%	0.0%

(4) 子供に現れた問題・症状や態度の変化

子供への暴力の結果、子供に現れた問題・症状や態度の変化としては、「怖がる」が 76.4%で最も多い。また、「引きこもり・不登校」(56.4%)から「家出」(14.5%)まで、複数の様々な症状が現れている。

「その他」としては、「過眠、抜毛、双極性障害、過呼吸、不安症」、「大きな音に対する恐怖」などがある。

表 2-28 子供への暴力の影響（複数回答）

全体	怖がる	引きこもり・ 不登校	悪夢・睡眠障 がい	パニックにな る	暴力的になる	人の目を気に する	落ち着きがな い	チック	片親への執着	幼児行動・赤 ちゃんがえり
55	42	31	28	24	21	21	18	17	16	16
100%	76.4%	56.4%	50.9%	43.6%	38.2%	38.2%	32.7%	30.9%	29.1%	29.1%

友達や兄弟を いじめる	食べ過ぎる・ 食べない	集中力がな い、ぼーっと している	友達や兄弟か らいじめを受 ける	おしだまる	成績が下がる	自殺未遂	家出	その他	無回答
15	15	15	13	13	12	10	8	28	3
27.3%	27.3%	27.3%	23.6%	23.6%	21.8%	18.2%	14.5%	50.9%	5.5%

4. 東京都発行のパンフレット又はカードの使用状況

(1) 東京都発行のパンフレット又はカードの使用状況

回答者が使用したことのある東京都発行のパンフレット又はカードについて尋ねたところ、「パートナーからの暴力に悩んでいませんか【カード】」(19.4%)「東京ウィメンズプラザ相談室利用案内【リーフレット】」(17.3%)、「配偶者暴力被害者支援ハンドブック【小冊子】」(13.3%)、「デートDVってなんだろう【カード】」(13.3%)「配偶者や交際相手からの暴力で悩んでいませんか【パンフレット】」(12.2%)となっている。

表 2-29 東京都発行のパンフレット又はカードの使用状況（複数回答）

全体	パートナーからの暴力に悩んでいませんか【カード】	東京ウィメンズプラザ相談室利用案内【リーフレット】	配偶者暴力被害者支援ハンドブック【小冊子】	デートDVってなんだろう【カード】	配偶者や交際相手からの暴力で悩んでいませんか【小冊子】	無回答
98	19	17	13	13	12	63
100%	19.4%	17.3%	13.3%	13.3%	12.2%	64.3%

(2) 使用のきっかけ

東京都発行のパンフレット又はカードを使用したことのある人のそのきっかけは、「配布されていた」(80.0%)、「相談相手から渡された」(37.1%)、「講演会等に参加して」(17.1%)の順となっている。

表 2-30 使用のきっかけ（複数回答）

全体	配布されていた	相談した人から渡された	講演会などに参加して	インターネット	その他	無回答
35	28	13	6	3	7	1
100%	80.0%	37.1%	17.1%	8.6%	20.0%	2.9%

パンフレット又はカードを受け取った配布場所としては、「区役所・区の相談窓口」(32.1%)、「トイレ」(21.4%)、「東京ウィメンズプラザ」(14.3%)の3つで67.8%に達する。

表 2-31 配布場所（複数回答）

全体	区役所・区の相談窓口	トイレ	東京ウィメンズプラザ	男女共同参画センター	病院	NPO法人	その他	無回答
28	9	6	4	2	1	1	2	6
100%	32.1%	21.4%	14.3%	7.1%	3.6%	3.6%	7.1%	21.4%

パンフレット又はカードを渡された相談相手としては、13人中、「NPO法人」（3人）、「区役所の相談員」（2人）となっている。

表 2-3-2 パンフレット又はカードを渡された相談相手（複数回答）

全体	NPO法人	区役所の相談員	病院の相談員	保健所	友人	無回答
13	3	2	1	1	1	5
100%	23.1%	15.4%	7.7%	7.7%	7.7%	38.5%

パンフレット又はカードを受け取った講演会等は以下の通り。

表 2-3-3 講演会等（複数回答）

全体	NPO法人	無回答
6	1	5
100%	16.7%	83.3%

（3）どのように役立ったか

パンフレット又はカードがどのように役に立ったかを尋ねたところ、「相談するきっかけになった」（62.9%）「DV被害者であると気付いた」（60.0%）、「連絡先を入手した」が54.3%となっている。「その他」としては、「情報収集に役立った」がある。

表 2-3-4 どのように役立ったか（複数回答）

全体	相談するきっかけになった	DV被害者であると気付いた	連絡先を入手した	その他	無回答
35	22	21	19	7	1
100%	62.9%	60.0%	54.3%	20.0%	2.9%

5. 公的機関等における自立（生活再建）に向けた支援・対応の現状

（1） 支援・対応を受けた機関・団体等

支援や対応を受けた機関・団体等は、「警察署」が 60.2%で最も多い。以下、「区市町村の女性センター・男女センター」（59.2%）、「民間団体」（56.1%）、「法テラス」（51.0%）からは半数以上の人が支援や対応を受け、「東京ウィメンズプラザ」（44.9%）、「病院」（37.8%）、「児童相談所・子供家庭支援センター」（36.7%）、「福祉事務所」（35.7%）、「弁護士」（32.7%）からは3割以上の人が支援・対応を受けている。

表 2－35 支援・対応を受けた機関・団体等（複数回答）

全体	警察署	区市町村の女性センター・男女センター	民間団体	法テラス	東京ウィメンズプラザ	病院	児童相談所・子供家庭支援センター	福祉事務所
98	59	58	55	50	44	37	36	35
100%	60.2%	59.2%	56.1%	51.0%	44.9%	37.8%	36.7%	35.7%

（法テラスを除く）弁護士	東京都女性相談支援センター	保健所・保健センター	母子生活支援施設	民間シェルター	女性自立支援施設（旧名称：婦人保護施設）	その他	無回答
32	29	23	18	17	10	20	3
32.7%	29.6%	23.5%	18.4%	17.3%	10.2%	20.4%	3.1%

次に、複数の機関・団体等による支援・対応等の具体的な状況を見ると、「母子生活支援施設」「民間シェルター」を除くいずれの機関・団体等の支援・対応等を受けている場合も、過半数の人が「警察署」、「区市町村の女性センター・男女センター」、「法テラス」からの支援や対応等を併せて受けている。

他の機関・団体等も含め、ほとんどの場合において回答者は複数の機関・団体等から支援や対応等を受けている。

表 2－36 複数の機関・団体等による支援・対応の状況（複数回答）

	全体	警察署	区市町村の女性センター・男女センター	民間団体	法テラス	東京ウィメンズプラザ	病院	児童相談所・子供家庭支援センター	福祉事務所	（法テラスを除く）弁護士	東京都女性相談支援センター	保健所・保健センター	母子生活支援施設	民間シェルター	女性自立支援施設（旧名称：婦人保護施設）	その他
全体	98	59	58	55	50	44	37	36	35	32	29	23	18	17	10	20
	100%	60.2%	59.2%	56.1%	51.0%	44.9%	37.8%	36.7%	35.7%	32.7%	29.6%	23.5%	18.4%	17.3%	10.2%	20.4%
警察署	59	-	43	38	36	34	26	29	28	18	19	14	12	10	10	15
	100%	-	72.9%	64.4%	61.0%	57.6%	44.1%	49.2%	47.5%	30.5%	32.2%	23.7%	20.3%	16.9%	16.9%	25.4%
区市町村の女性センター・男女センター	58	43	-	33	30	34	25	22	21	20	18	17	10	8	7	15
	100%	74.1%	-	56.9%	51.7%	58.6%	43.1%	37.9%	36.2%	34.5%	31.0%	29.3%	17.2%	13.8%	12.1%	25.9%
民間団体	55	38	33	-	28	29	25	20	22	18	15	14	8	10	7	16
	100%	69.1%	60.0%	-	50.9%	52.7%	45.5%	36.4%	40.0%	32.7%	27.3%	25.5%	14.5%	18.2%	12.7%	29.1%
法テラス	50	36	30	28	-	26	23	23	25	17	18	15	12	9	8	12
	100%	72.0%	60.0%	56.0%	-	52.0%	46.0%	46.0%	50.0%	34.0%	36.0%	30.0%	24.0%	18.0%	16.0%	24.0%
東京ウィメンズプラザ	44	34	34	29	26	-	18	18	24	11	17	12	10	9	7	11
	100%	77.3%	77.3%	65.9%	59.1%	-	40.9%	40.9%	54.5%	25.0%	38.6%	27.3%	22.7%	20.5%	15.9%	25.0%
病院	37	26	25	25	23	18	-	18	14	16	12	9	9	9	5	13
	100%	70.3%	67.6%	67.6%	62.2%	48.6%	-	48.6%	37.8%	43.2%	32.4%	24.3%	24.3%	24.3%	13.5%	35.1%
児童相談所・子供家庭支援センター	36	29	22	20	23	18	18	-	18	10	11	13	12	6	6	10
	100%	80.6%	61.1%	55.6%	63.9%	50.0%	50.0%	-	50.0%	27.8%	30.6%	36.1%	33.3%	16.7%	16.7%	27.8%
福祉事務所	35	28	21	22	25	24	14	18	-	11	13	12	12	8	6	6
	100%	80.0%	60.0%	62.9%	71.4%	68.6%	40.0%	51.4%	-	31.4%	37.1%	34.3%	34.3%	22.9%	17.1%	17.1%
（法テラスを除く）弁護士	32	18	20	18	17	11	16	10	11	-	10	9	6	5	3	9
	100%	56.3%	62.5%	56.3%	53.1%	34.4%	50.0%	31.3%	34.4%	-	31.3%	28.1%	18.8%	15.6%	9.4%	28.1%
東京都女性相談支援センター	29	19	18	15	18	17	12	11	13	10	-	8	8	5	3	4
	100%	65.5%	62.1%	51.7%	62.1%	58.6%	41.4%	37.9%	44.8%	34.5%	-	27.6%	27.6%	17.2%	10.3%	13.8%
保健所・保健センター	23	14	17	14	15	12	9	13	12	9	8	-	9	6	2	4
	100%	60.9%	73.9%	60.9%	65.2%	52.2%	39.1%	56.5%	52.2%	39.1%	34.8%	-	39.1%	26.1%	8.7%	17.4%
母子生活支援施設	18	12	10	8	12	10	9	12	12	6	8	9	-	6	4	3
	100%	66.7%	55.6%	44.4%	66.7%	55.6%	50.0%	66.7%	66.7%	33.3%	44.4%	50.0%	-	33.3%	22.2%	16.7%
民間シェルター	17	10	8	10	9	9	9	6	8	5	5	6	6	-	2	1
	100%	58.8%	47.1%	58.8%	52.9%	52.9%	52.9%	35.3%	47.1%	29.4%	29.4%	35.3%	35.3%	-	11.8%	5.9%
女性自立支援施設（旧名称：婦人保護施設）	10	10	7	7	8	7	5	6	6	3	3	2	4	2	-	2
	100%	100.0%	70.0%	70.0%	80.0%	70.0%	50.0%	60.0%	60.0%	30.0%	30.0%	20.0%	40.0%	20.0%	-	20.0%
その他	20	15	15	16	12	11	13	10	6	9	4	4	3	1	2	-
	100%	75.0%	75.0%	80.0%	60.0%	55.0%	65.0%	50.0%	30.0%	45.0%	20.0%	20.0%	15.0%	5.0%	10.0%	-

(2) 必要な支援

今後、安定した生活を送るために必要な支援としては、7割が「カウンセリング等精神的ケア」(71.4%)を、5割以上が「住宅の斡旋」(57.1%)、「子供の学費の支援」(54.1%)、「自助グループ等同じ体験をした人との交流の機会」(53.1%)を挙げている。

等

表 2-38 必要な支援やサービス（複数回答）

全体	カウンセリングなど精神的ケア	住宅のあっせん	子供の学費の支援	自助グループなど同じ体験をした人との交流の機会	加害者を更生させるプログラムの取組	自立支援のための勉強会や就職準備の研修	役所や相談機関へのつきそい	仕事に就くまでのあいだに、必要なお金の貸付
98 100%	70 71.4%	56 57.1%	53 54.1%	52 53.1%	44 44.9%	40 40.8%	34 34.7%	33 33.7%
保育の充実	身近な地域での見守り体制（民生委員や町内会など）	その他	無回答					
31 31.6%	23 23.5%	37 37.8%	1 1.0%					

(3) 他の被害者が行う支援

同様の暴力を受けた被害者（個人又はグループ）が行っている支援については、「必要」とした人が85.7%を占める。

表 2-39 他の被害者が行う支援

全体	必要	必要ない	無回答
98	84	5	9
100%	85.7%	5.1%	9.2%

(4) 加害者プログラムについて

加害者プログラムについては、「知っている」と回答した人が67.3%に達し、一定の認知度があると考えられる。しかしながら、実際に「受けている人」は7.6%にとどまっている。

加害者プログラムを受けていない理由として、「加害者に受ける気がない」(80.5%)、「実施団体を知らない」(24.4%)が上位を占めている。また、加害者プログラムの有効性については、「プログラムを受けても加害者は変わらないと思う」(32.7%)、「効果があるかはわからない」(30.6%)が上位を占めた。

表 2-40 加害者プログラムの認知

全体	知らない	知っている	無回答
98	31	66	1
100%	31.6%	67.3%	1.0%

表 2-41 加害者プログラムの受講

全体	受けていない	受けている	無回答・不明
66	41	5	20
100%	62.1%	7.6%	30.3%

表２－４２ 加害者プログラムを受けていない理由（複数回答）

全体	加害者に受ける気がない	実施団体を知らない	実施団体が少ない	受講料が高い	無回答・不明
41	33	10	2	1	6
100%	80.5%	24.4%	4.9%	2.4%	14.6%

表２－４３ 加害者プログラムの有効性（複数回答）

全体	更生プログラムを受けても加害者は変わらないと思う	効果があるかは分からない	加害者が変わってくれるなら、ぜひ続けてほしい	更生プログラムは有効だと思う	無回答・不明
98	32	30	16	12	22
100%	32.7%	30.6%	16.3%	12.2%	22.4%